

デジタル田園都市国家構想の実現で未来を切り拓く！

村民の皆様へ

本村が進めてきたスーパーシティ型の国家戦略特区につきましては、令和4年3月4日の専門委員会で大阪市とつくば市を指定する原案が了承され、残念ではありますが本村が提案していた「更別スーパービレッジ構想」は選定にはあたりませんでした。

村民の皆様には、この間、スーパーシティ構想の実現に向け、何かとご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝とお礼を申し上げます。

大変残念な結果ではありましたが、2017年の国家戦略特区指定の申請から5年間の取り組みの中で、東京大学の誘致や研究者の参集、先端技術を持つ企業の誘致や連携の強化、光回線や5G基地局をはじめとする高度通信網の整備、デマンドタクシーの本格運用やドローンによる農薬散布やセンシング、完全自立自走トラクターの開発など、スマート農業の推進に努めてまいりました。

本村には少子高齢化や人材不足などの喫緊の課題が山積しており、これらの課題の解決を図るため、これまでの取り組みの成果を土台として、当初掲げた「更別スーパービレッジ構想」の実現に向け、住民と産学官が一体となって取り組まなければならないと決意を新たにしているところです。

現在、村では昨年総務省より採択されたデータ連携基盤整備事業での都市OSも完成し、関連する分野での連携したDX化に向けた取り組みが開始されています。

さらに、国交省のスマートシティプロジェクトの内定があり、全村3Dマップの作成にも着手可能となりました。

今後は、「課題の多い地方からの早急なデジタル化を進める」との合言葉のもと、国が強力に押し進めているデジタル田園都市国家構想の中で、ICTやAIを活用し、行政手続きのデジタル化などの利便性の高い住民サービスの構築、心身ともに健康で安心して暮らせる社会基盤づくりや持続的な農業経営をサポートするスマート農業の更なる推進、新たな産業の創出など規制緩和を必要としない分野での速やかな実装を目指し、精力的に取り組んでまいります。

まずは、都市OSを核とした国のデジタル田園都市構想推進交付金事業のタイプ3（リーダー的事業）の本村での早期採択を目指し、総力を挙げているところです。

今日、様々な分野でのデジタル化が進み、私たちの暮らしの中に無くてはならないものとして定着しつつあります。デジタル田園都市国家構想が掲げる「地方の魅力そのままに、都市に負けない利便性と可能性」を目指し、20年30年後の豊かで持続可能な村の実現に向け、決して歩みを緩めることなく前に進んでまいりたいと思います。重ねて村民の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

令和4年4月12日

更別村長 西山 猛